

議員提出議案

12月定例会では、議員から次の5議案が提出され、いずれも原案のとおり可決しました。なお、可決した意見書は、国会及び関係行政庁等へ提出しました。

◆本庄市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

議員の期末手当の額を減額する措置を講ずるため、条例の一部を改正するものです。

◆本庄市議会委員会条例の一部を改正する条例

議員定数の変更に伴い、常任委員会数を4委員会から3委員会に減らす等の条例の一部を改正するものです。

◆本庄北高校と児玉高校定時制課程の存続を求める意見書(抜粋)

埼玉県教育委員会は、県立高等学校の後期再編整備計画案の中において、本庄高校と本庄北高校を統合し、新たな全日制単位制高校を現在の本庄高校に設置する案、及び児玉高校の定時制課程を閉課程とする案を明らかにしました。高校教育が義務教育化している中で、本庄北高校は、本庄児玉地域を始め近隣の市町村から通学する生徒が多く、同高校が統廃合されてしまうと、毎年入学していた160人の子どもの入学できなくなる恐れがあり、同校の通学区域全体の教育環境に大きな支障をきたすこととなります。

◆保育所にかかわる国基準の堅持・向上を求める意見書(抜粋)

保育所にかかわる国の最低基準について、地方分権改革推進委員会の第3次勧告が、廃止または地方自治体の条例に任せるよう求めたことを受け、政府は具体的な調整を進めていると伝えられています。国の現行基準は、保育室の面積や保育士の配置数などを定めたものであり、子どもの発達を保障する上で最低限度の基準を示したものです。本市議会は、子どもの

編集後記



旧本庄市と旧児玉町が合併し、新・本庄市が誕生して最初の4年間(一期)が終わります。昨年を表した漢字は「新」、新型インフルエンザや、新政権の発足など、多くの新たな出来事がありました。今年トラ年。虎がつく諺や慣用語には良くも悪くも強いイメージを持つものや、虎が子どもを大切にすることが作られたものが多く、中国には「虎は風をおこす」という諺があります。活気あふれるまちづくりの風と共に、新たな一歩を踏み出す一年になりそうです。

なお、この議会日より、2月4日までの委員で編集しました。

新議員22名が決まる!

1月31日に行われた本庄市議会議員一般選挙により、新たに22名の議員が決まりました。

今回の選挙から、議員定数が前回の30名から8名減となりました。

なお、任期は平成22年2月5日から平成26年2月4日までです。

※立候補届け順

氏名	(年齢)
林 富司	(73)
山口 薫	(63)
清水 達夫	(61)
早野 清	(60)
明堂 純子	(63)
中原 則雄	(56)
榎田 平一郎	(58)
田中 輝好	(43)
高橋 和美	(60)
富田 雅寿	(48)
町田 美津子	(59)
木村 広二	(71)
小暮 ちえ子	(45)
小林 猛	(60)
堀口 伊代子	(43)
広瀬 伸一	(38)
青木 清志	(62)
飯塚 俊彦	(49)
岩崎 信裕	(61)
柿沼 綾子	(57)
柿沼 光男	(62)
鈴木 常夫	(63)

◆八ツ場ダム建設事業の継続を求める意見書(抜粋)

八ツ場ダムは、利根川水系の上流ダム群同様に、下流域の洪水被害を防ぐとともに、下流域住民の水道水を確保するための多目的ダムであり、治水・利水面において必要不可欠な施設であることは、明白な事実であります。八ツ場ダムの建設は、国策として57年の長きにわたって、関係住民の犠牲と関係地方自治体の負担の上に進められてきた事業であり、国の責任において完遂させるべきものであります。よって、国においては、地元住民を始め関係地方自治体との十分な協議の上、八ツ場ダムの建設を継続するよう強く要望します。